

伊集院保健所感染症情報

2024年第32週（令和6年8月5日～令和6年8月11日）

【お問い合わせ先】 〒899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiki/kagoshima/index.html>

● 定点把握感染症 管内警報発令：咽頭結膜熱、手足口病

定点医療機関【インフルエンザ5，小児科3，基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息	基準値	第29週	第30週	第31週	第32週	先週からの増減	第31週	前週からの増減
インフルエンザ	30	10	10	0.00	0.00	1.00	0.00	↘	0.31	→
COVID-19	-	-	-	27.00	21.40	11.00	9.20	↘	15.97	↘
咽頭結膜熱	3	1	-	2.67	3.00	2.67	4.67	↗	1.04	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-	2.33	1.00	1.33	2.00	↗	1.31	↘
感染性胃腸炎	20	12	-	1.00	1.67	1.33	0.67	↘	3.69	↗
水痘	2	1	1	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.16	↗
手足口病	5	2	-	8.33	12.00	5.00	2.00	↘	7.35	↘
伝染性紅斑	2	1	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	→
突発性発しん	-	-	-	0.33	0.33	0.00	0.00	→	0.24	↘
ヘルパンギーナ	6	2	-	1.00	1.67	1.33	2.00	↗	2.65	↗
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.33	0.00	0.00	0.00	→	0.08	↗
RSウイルス感染症	-	-	-	5.33	4.00	2.67	4.33	↗	5.02	↗

※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし， 注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし

● TOPIC 熱中症を予防しましょう！！

熱中症とは、高温環境下で体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する身体不調の総称です。めまい、筋肉のこむら返り、手足のしびれなどに始まり、重症例では意識障害、場合によっては死に至ることもあります。

しかし、予防法を知っていれば防ぐことができます。日常生活における予防法は、脱水と体温の上昇を抑えることが基本です。即ち、行動・住まい・衣服を工夫して暑さを避け、こまめに水分を補給しましょう。



熱中症予防のための POINT

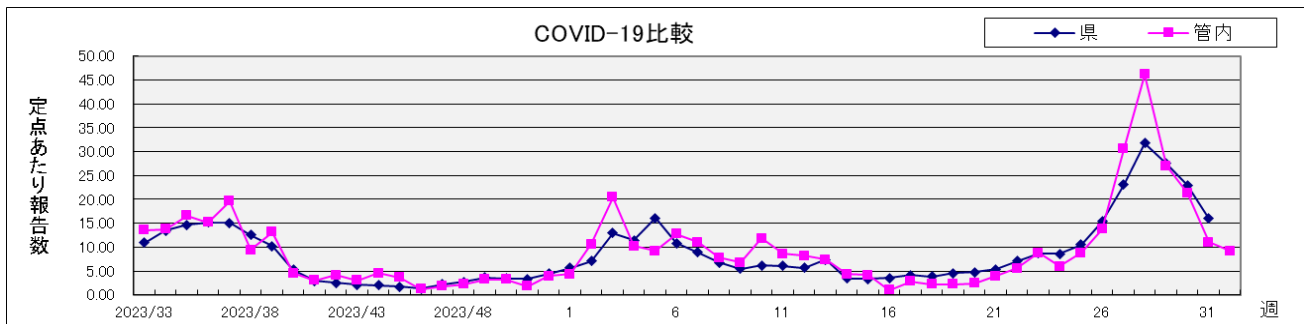
- 1 熱中症警報アラートをチェックする
- 2 見守り声かけをする
- 3 適切にエアコンを使用する
- 4 こまめに水分・塩分を補給する

熱中症予防情報サイト 検索



● 注意すべき感染症

● COVID-19（新型コロナウイルス感染症）

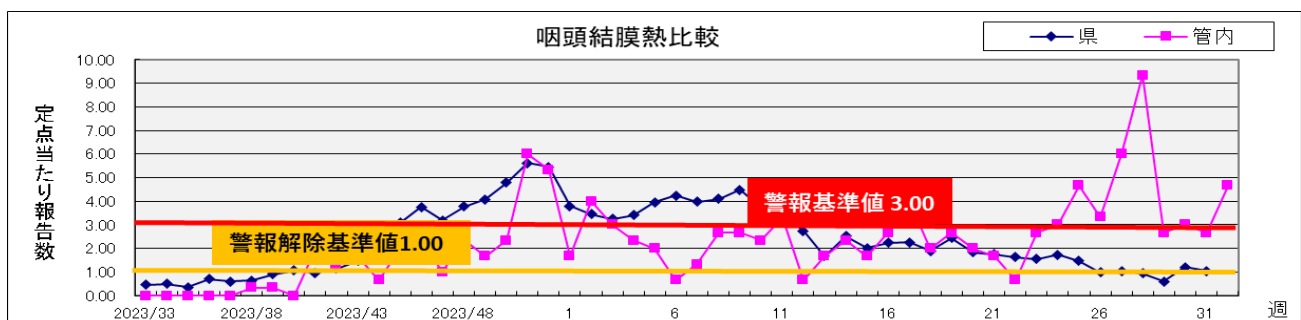


今週の伊集院保健所管内における COVID-19 の報告数は、前週の 55 人（定点当たり 11.00）から 9 人少ない 46 人（9.20）でした。

年代別では 0～11 ヶ月（2 人），1～9 歳（14 人），10～19 歳（3 人），20～29 歳（3 人），30～39 歳（2 人），40～49 歳（2 人），50～59 歳（8 人），60～69 歳（3 人），70～79 歳（4 人），80 歳以上（5 人）と全年代において報告されています。

お盆を境に再度増加に転じることがあります。体調管理に留意し、手洗いや換気など基本的な感染対策を心がけましょう。

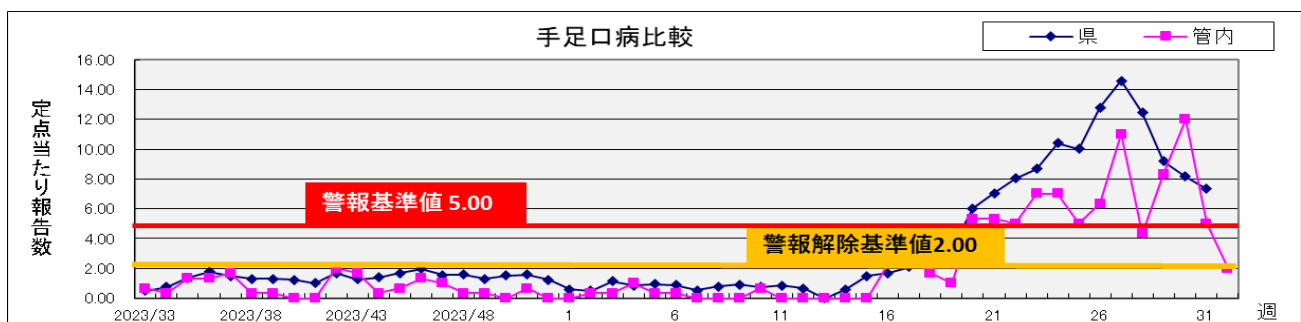
● 咽頭結膜熱（管内警報発令中！）



今週の伊集院保健所管内における咽頭結膜熱の報告数は、前週の 8 人（定点当たり 2.67）から 6 人多い 14 人（4.67）でした。年齢別では、1 歳（5 人），3 歳・4 歳（各 2 人）・6 ヶ月～11 ヶ月・2 歳・7 歳・10～14 歳・20 歳～（各 1 人）でした。

咽頭結膜熱は、小児の急性ウイルス性感染症で、飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染で拡大します。感染予防対策としては、タオルの共用はせず、感染者と密接な接触を避け、また流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。

● 手足口病（管内警報発令中！）



今週の伊集院保健所管内における手足口病の報告数は、前週の 15 人（定点当たり 5.00）から 9 人少ない 6 人（2.00）でした。年齢別では、2 歳（4 人），0～5 ヶ月・5 歳（各 1 人）の順に多い報告でした。

飛沫感染、接触感染、糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）が知られています。感染予防対策としては、タオルの共用はせず、手洗いをしっかりしましょう。